

（仮称）宮前区「希望のシナリオ」実現プロジェクト

宮前区らしいしくみ「ラウンドテーブル」をお試し実施しよう！

ミーティング3：宮前区らしいソーシャルデザインセンターを考えよう

令和4（2022）年3月13日（日）13：30～16：30

第2部：グループワークの全体共有・閉会あいさつ

注釈

* [] 内は動画や画面上での操作に関する補足です。実際に発言している内容ではありません。

* SDC：ソーシャルデザインセンターの略

00:00:00 [音楽] タイトル画面

00:00:18

A グループ | 千葉：

- ・ A グループ全体の議論としては、現役世代の参加を促すということが大事、若い世代とか学生とかそういう人が参加して行くことが大事という話があって、リモートワークも進んでいるので、地域に関心がある若い世代が増えているという話がある一方で、働いている世代は忙しくて、お金も稼がなきゃならないということがあって、どういう風に「お金」（謝礼でもいいし、あるいは給料でも良いし）そういうことを考えていく必要があるということも、問題としてはらんでいるのかなという話がありました。
- ・ ただお金ありきか、それともモチベーションを大切にしていくのかという両方の議論が必要なんじゃないか、お金の議論も大事という話がありました。
- ・ あと、ソーシャルデザインセンターが市民課題を全て解決するようなものなのか、部分的なものなのかという話が質問としてあったんだけど、それは全課題なんだけど、すべての課題を解決できる人が集まってスタートすることは難しい。だから、できるところから考えて行くということになるのかなという風に話をしていました。
- ・ 長期の図の中で、これ全部紹介していけないと思うんですけど、中立性を保っていくことが大事という話。
- ・ あと、ラウンドテーブルに誰が就くのかをどう決めるかというコーディネート力って、例えば、相関図とかマップは作りましたけど、時間が経つとその相関図は古くなっていく、マップも古くなっていく、常に情報がアップデートした状態でコーディネートするというのは結構大変なことだよねという話がありました。
- ・ あと、[運営] 組織の中にいろいろな組織が入っているけど、庁内、区役所の関わりとしての温度感の統一というのもすごく大事で、区もすごくこのことを大切につなげていってもらうことが大事という話がありました。

- ・そして、絵としてはいいのではないかみたいな話があったんだけど、SDC が目指していること、いつまでに、何を、どうやって、やっていくのということをイメージできない。
- ・できないと、なかなか人はついてこない。
- ・だからどう具体的にロードマップとして示して行くのかということが大事ということで、短期、直近のことと中期のことというようなロードマップの示し方というのも、必要なのかなという話がありました。
- ・特に短期の話で言うと、立ち上げのグループってすごい大事だよなって話があって、希望者というものもあるけど、例えばまち協とバラバラに議論して行くと、まち協でもこういう議論をしているので、ちゃんと一緒に考える必要があるとか、区役所にいろいろな所管がちゃんと入って行くこと、あと議員さんの参加ということも大事じゃないかという意見もありました。
- ・あと、連携したいというのは、実は総論は賛成だけど、実はあんまり連携してやりたいわけではない団体が多いんじゃないのという本音があると。
- ・それは誰が立ち上げをスタートするかで、誰が関わってくれるのかが変わってくるのではないかという話もありました。

00:03:20

B グループ | 吉川：

- ・結構最初の方で話盛り上がったのが、長期の図の左上の方なんですけど、人の巻き込み方というところが結構気になったというご意見をいただきました。
- ・今は、すごく関心高いメンバーですごく関わってもらってるんだけど、今後実施して行く上で、もっといろいろな多様な一般の人であったり、サポーターの参加を広げていく必要があるのではないかということで、具体的に何ができるかという話までは至らなかったんですけど、一般の人でもソーシャルデザインセンターとはなんぞやというのをもっとわかりやすくしたりとか、楽しいかわり方もできるんじゃないかっていうことがあります。
- ・あとは、情報発信、見やすさも大事というところとか。
- ・あとは、このオープンで開かれた場所であることが大事という話もしました。
- ・相談窓口というところで、誰でもふらっと立ち寄れるような、公共性を保つためには、やっぱり拠点があった方が、いろいろな人にリーチできるんじゃないかというご意見がありました。
- ・あと屋根がある拠点ってすごくイメージしやすいよねというところで、例えば、区役所の空いている施設とか、一角とかを貸してもらえるといいのではないかっていうところ。
- ・じゃあどんな相談を受けるのかっていう話を少ししたんですけど、日頃から個人の悩みとかについても、相談を受けられるような場所になるといいよねっていう話がありまして、そこからその小さな個人の悩み事をこの「課題の収集・整理」というところで、ストックしていったって、まちの課題に変換していくと

というようなことができるのではないかと。

- ・で、それをいろいろな情報を収集・ストックすることによって、「このまちではこういう風にやっているらしいですよ」というのをシェアすることで解決に導くことも可能かもしれないし、それが難しかったら、じゃあみんなの力で一緒に考えていくというラウンドテーブルの場をコーディネートするというのが、SDC の役割になっていくんじゃないか、というような話がありました。
- ・課題としては、相談の窓口を設けたときに、テクニカルな専門的な話とか、やはり行政に行ったほうが良いという話があったときに、行政窓口との棲み分けをどうしたらいいんだろうかというところが、今後の課題として挙げられました。
- ・あとは、この右側に貼っている内容なんですけど、これをじゃあコーディネートして行く人って、理想的に1人か2人いたらいいよねという話になったんですが、それってやっぱり結構大変だし、何でも知っている人ってなかなかいないよね、ということがありまして、人に頼らずに、自分から情報にアクセスしたりとか、ここに行けばいいんだなというのが、わかるような情報発信とかができるといいんじゃないかというようなアイデアがありました。
- ・そこで、それに向かうために短期できることというところで、まず、すぐにできそうなのってこの情報発信とか課題収集とか、整理のところだよなというようなお話がありました。
- ・もうすでに、いろいろな情報とかがあるので、何があるのかということをもまず把握して、例えば、皆さんと一緒に作った活動相関図とかも、全然知られていないので、それを関わってもらっている団体さんのInstagramとか、ツイッターなどを使って、情報発信していったりとか、というようなことができるといいじゃないかというような話がありました。
- ・あとは、その課題をどう収集・蓄積していくのかっていうところはちょっと要検討だよなっていうところで、この立ち上げワーキンググループの皆さんで考える必要があるというお話で、話を終えました。
- ・以上です。

00:07:12

C グループ | 村合：

- ・グループのメンバーの皆さんが、まち協の方が多かったということもありまして、主にまち協のこれまでの長い実績をいかに「希望のシナリオ」・SDCにつなげていくかというところが、議論のポイントとしてはありました。
- ・宮前区らしさっていうのが、まさにそういった20年来の区づくりプランから始まったものだということもありまして、そういった先ほどの永野さんだったり、C グループに荒川さんがいらっしゃったんですが、そういった方々から学んで活かしていった、それをSDCに活かして行く事が大事。そういった意見。
- ・それからそれに付随して、人口動態というものを見据えて考えていくことが重要だよというところがあります。
- ・人口動態だったり、これまでに活躍してきたレジェンドの皆さんも含めて、対話、ITとかの、これから

台頭して行くと思うんですけども、そういう IT も駆使していけるように、みんなで学びながらそういった活動を通して、健康という、大事な資産を維持して活躍して行くというところが、とてもこの宮前区の SDC の運営していくところには大事な視点であるという話が大きくはありました。

- ・それから、資金支援についても大切だよという話がありまして、特にすぐに立ち上げ期から使える資金支援とは何かということも話題にあがりました。
- ・様々な区の助成とかはあるんですけども、例えば、活動の中では、学校や図書館に拡大写本を作って、納めて、代金を受けるというようなことで、そういう仕事としてお金を得ることもある、だったり、他の似たような団体とか、事例からこうアイデアを得るということが、とても助けになるので、ぜひそういう事例を探してみようというような話もありました。
- ・それで、この図の中でラウンドテーブルの中に様々な本当に多彩なメンバーがいるんですが、商店会がないというのはなぜなのっていうご意見がありまして、こちらは企業と書いている部分に一応商店会なども含まれているし、全く含めていないということではなくて、更にいろいろな方を交えていきたいというところで、質問と回答がありました。
- ・C グループは以上になります。

00:10:22

D グループ | 相澤：

- ・まず初めにですね、宮前らしさという単語がいろいろなところで出てくるんですけども、それを一言でコンセプトのように語るってなかなか難しいよねというような話がありました。
- ・なのでこの SDC を考えるにあたってそういったことも一言で伝えられるような言語化できるとよりいいかなという話がありました。
- ・でも十人十色だと思うので、それを 1 つにまとめるのは難しいよねというような話も同時にありましたね。
- ・あとは運営団体みたいなところで行きますと、そもそもこれは組織として入るのか、個人として入るのか、どちらのほうがいいかなという話もありました。
- ・きっかけとしては個人で入っていただくのもいいかなという話があったりだとか、逆に団体として入ってもらうことで、プロジェクトをつくっていくときに組織として関わってもらうということもあると思うので、段階に合わせてだったりとか、どちらでも参加ができるといいよねという話がありました。
- ・あとは、ラウンドテーブルに入っているところの、今自治会さんとか町内会とか企業とか行政って大きいくりになっていると思うんですけど、ここの言葉をもう少し細かく具体的にしておく、よりこの SDC の全体像が分かりやすくなるかなという話がありました。
- ・多分先程の C グループの商店街みたいなことも同様な意見かなという風に思っております。
- ・あと、SDC に若い人たちにも参画してほしいよねというような話があった時に、働く世代ってどうし

でも関わる時間を確保するのが難しいよねというところで担い手にもつながってくると思うんですけど、どうやったらそういう若い世代が関われるんだろうかというところも少し話をしてみました。

- ・中心的にこう関わることは難しいかもしれないですけど、数時間であったりとか半日とか、例えばイベントの時の写真撮影であったりとか、こう地域活動のパートさんみたいな形で大学生とか主婦の方とかでも参加できるような気軽さがあるといいのではないだろうかというような話がありました。
- ・あとは会議する場所も区役所とか、そういった堅苦しい、堅苦しいっていうのは私の意見なんですけど、そういう場所でやるんじゃなくて、日常の中の延長で、例えば、公園とかでそういう会議が行われていると、何やってるんだろうという風にちょっと目にももらえたりとか、気になってたりとか、あと仕事の息抜きでも参加できるんじゃないかという意見もありました。
- ・あとは、いろいろな人に関わってもらおうという事で、セカンドキャリアのようなスキルの提供みたいなことがこの SDC をきっかけに行き届くと良いのではないかというような話がありました。
- ・あとは、オンライン相談の窓口という風になってると思うんですけども、オンラインの良さもあると同時にやはりリアルの場所というのも少しあった方がいいのではというような話がありました。
- ・いきなりこう、オンラインで場を設けてもなかなか調べないと目に付かないみたいなことがあったりすると思うので、まずは紙媒体で掲示板に貼ってもらうとか、あとはいろいろな区内のイベントに参加して、SDC としてブースを出展するとか、そういうオフラインでもまず知ってもらうための活動が必要なんじゃないかというような話がありました。
- ・あとは全体としては楽しいとか、ワクワクするとか、そういった SDC になるとよりいろいろな人が関わってくれる組織になるのではというような話がありました。
- ・以上です。

00:14:20

まとめ | 千葉：

- ・印象的だなと思ったのは、まち協とか区づくりプランの 20 年の歴史ということでやっぱり、宮前区らしさの 1 つを作っているのは、まち協などの先輩活動というか、今現役だと思いますけど、そのレガシー的な活動がすごく大切というのがあるとともに、若い世代の関わりというのも大切にしたいという両方の議論が出てきていたと、これすごいどちらも大事だなという風に思いました。
- ・で、その中で場所の考え方っていう話があったんだけど、オープンで開かれた場所であると良いって話があったのが確かに大事だなという風に思いました。
- ・で、発表の中に出なかったんだけど、A グループの山野辺さんは麻生区の検討にも加わっていて、午前中に、麻生区 SDC の議論をしてからここに来てくださったということなんですけど、例えばワークショップカーならぬ「SDC カー」というのを作ってそれがいろいろな現場に飛び出して行くみたいな話をしてるとことで、そんな発想はなかったのすごいわびっくりしました。
- ・なので、ある場所に拠点を構えているという発想もちろんあるし、「拡大まちかどシェア」のように

外に出て行って何かをやるっていうのもあるし、そもそもそのカーとしてこう車が出動するみたいなこともあるというのは、こういう発想でまず窓口であるとか場所というのを考えていくことが大切なんだという、リアルな場というバランスが大事というふうに思いました。

- ・で、あと巻き込み方っていうことでね、情報発信の仕方、どんな人が関わっていったらいいのかということについては、結構丁寧に考えていくことが大事なので、直近では、ワーキンググループを立ち上げると言っているけど、どんなメンバーで立ち上げるのか、誰が入っていたらいいのか、この人が入っていたらついてきてくれるということも含めて、よく考えていかなければ、SDC の議論だけが空回ってしまってもったいないと。
- ・私のグループの中でも、たくさんワークショップとかに関わって意見を言ってきているけど、区役所の人ちゃんと熱量を持って関わってくれているのかとか、これが何になって行くのかということが示されていないと、関わっているだけしんどい部分もあるという話がありましたので、その次のステップ、短中長のステップの中の、次はどう具体的に進めるのかよく今日のワークショップを聞いて考えていかなきゃならないと思いました。
- ・あと商店街とかを始め、いろいろなステークホルダーがこのまちの中にある時に、SDC との関係というのを改めてわかりやすく示していく、こんな役に立つものなんだとことを示していくということも大切だと思いました。
- ・あと宮前区らしさとかという言葉結構バンバン使ってたんですけど、「それって何なの？」という言語化というのがないと、みんなの中でバラバラの「宮前区らしさ」という中で考えていくのではない。
- ・でもそういう作文というのが、実は一番時間がかかったり、議論が重なるところなのかもしれないと思いましたので、1 個 1 個そういうことを解決していくことが、短期の中ではすごく必要だと思いました。
- ・あとは、運営組織のこと、コーディネーターのこととか、直近でできる情報発信や課題整理ということ、まず考えていかなきゃならないんだけど、これも言われて発表してなかったんですけど、ラウンドテーブルということを最初にやってそして SDC の議論になったんだけど、そもそも SDC の議論をしてからラウンドテーブルという順番のほうがよかったんじゃないのという声もありました。
- ・確かにラウンドテーブルありきに見えていたとしたら、それは本当に違うと思うのでラウンドテーブルではない解決方法も含めてこの短期で考えていくことが大事。
- ・ラウンドテーブルでできることというのはお試しできたので分かったけど、他のことも含めて今日出てきたアイデア、本当に次に進めていくことが大事なと思いました。

00:18:22 閉会挨拶

山田：

- ・みなさんありがとうございました。
- ・本当にいろいろな所で白熱した議論で、改めてちゃんといただいたご意見をこちらで整理して、来年度以降の取組に繋げていきたいと考えております。
- ・できるだけ早く、時間をおかずに来年度着手できるようにして行きたいと思いますので、ご協力よろし

くお願いいたします。

- ・ 閉会のご挨拶を企画課長から改めてさせていただきます。

00:18:51

小出：

- ・ 皆さま大変お疲れ様でした。
- ・ 本日は長時間にわたりまして、このミーティングにご参加いただきましてありがとうございました。また円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございます。
- ・ システム上の大きなトラブルも無く終えられまして、今ホッとしております。
- ・ 本日大変資産に富んだご意見、それから区役所として受け止めなければならないご意見、たくさん頂戴いたしました。
- ・ いただいたご意見たくさんいただきましたので、これから整理をして、来年度の新たなステップに入る取組に活かして行きたいと思っています。
- ・ そして来年度の取組にもぜひまた多くの皆様にご参画いただいて、一緒に作り上げていきたいと考えておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
- ・ またお声がけをさせていただきたいと思います。
- ・ 本日は誠にありがとうございました。